

【天気予報】

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は平年並または高い確率ともに40%です。降水量は平年並または多い確率ともに40%です。
三島地区における12月の過去の気象データは以下の通りです

	平均気温 (°C)	最高気温 (°C)	最低気温 (°C)	降水量 (mm)
2016年	9.1	12.8	5.2	90.0
2017年	6.5	9.9	3.4	47.0
2018年	8.9	11.9	6.2	58.5
1981~2010年	8.3	11.9	5.0	45.9

※気温については、1ヶ月の平均値

【作物】

1 麦(裸麦・小麦)

(1) 雑草防除

播種直後に除草効果が低下した場合や、ヤエムグラ等の広葉雑草などが生育期に残っている場合は、次の薬剤を使用し、雑草防除に努めて下さい。

薬剤名	使用時期	10aあたり		使用回数	適用雑草、使用上の注意など
		使用薬量	希釈水量		
ハーモニ75DF水和剤	播種後～節間伸長前(但しスズメタポウ5葉期まで)	5～10g	1000	1回	1年生広葉雑草、スズメタポウ隣接作物に飛散しないよう特に注意する。使用器具は使用後に消石灰500倍による水洗いを行う。
アクチノール乳剤	穂ばらみ期まで(ヤエムグラ2～4節期、1～2月)	100～200ml	70～1000	2回以内	畑地1年生広葉雑草ヤエムグラに特効的であるが、イネ科雑草には効果が無い。

(2) 排水対策の徹底

湿害防止のため、圃場の周囲及び圃場内に3～5m間隔に排水溝を設置し、表面排水を良くして下さい。特に、排水溝は必ず圃場の外まで導いて、雨水が排出されるようにして下さい。

(3) 麦踏み

根の浮き上がり防止、分けつや根張り促進の効果があります。麦の3葉期以降で土壌が乾いている時に、年内1回の麦踏みを実施して下さい。

2 水稻の作柄

(1) 令和元年産水稻の作況指数(10月15日現在)は、東予地域では95(愛媛94)でした。

ア 早期水稻(コシヒカリ、あきたこまち)は、倒伏による品質低下や刈り遅れが多くなりました。

イ 普通期水稻(ヒノヒカリ、にこまる)では、出穂期の台風や日照不足により登熟が悪くなりました。

(2) 令和2年産水稻の栽培計画は本年の作柄を振り返り、安定した良食味高品質米生産を目指して下さい。

<松本>

【野菜】

1 さといも・やまのいも

(1) 土づくり

有機質の投入は、土づくりのためには重要な作業ですので、次の点に注意して行って下さい。

ア 年内に終了して下さい。

イ 完熟堆肥を投入して下さい。

ウ 投入量の目安は2t/10aです。

エ 投入後に、最低2回は深耕して下さい。

(2) さといも種芋の貯蔵

次年度の種芋貯蔵にあたっては、次の方法を検討して下さい。

ア 圃場選定

生育期間中、疫病による茎葉の損傷程度が少なく、乾腐病等による芋の腐りが見られない圃場で排水の良い圃場を選定して下さい。

イ 貯蔵方法

①圃場での貯蔵

昨年は寒波の低温の影響により、かなり腐りが発生しました。「畝中」で貯蔵する場合は、再度、土入れを行い、株の上を粗穀、又は不織布で被覆するなど、防寒対策を十分に行って下さい。

②生け込み貯蔵

掘り取り時に腐敗や害れの有無を十分に確認して、腐敗芋の混入を避けて下さい。

ウ 種芋量

病害や低温による腐敗を考慮し、種芋を平年より多めに確保して下さい。

(3) やまのいも種芋の貯蔵

やまのいもは排水の良い場所を選び、芋を60cm程度に積み上げます。乾燥防止のために10～15cmの覆土をし、その上を稲わら等で覆います。

2 タマネギ

除草剤散布

活着後、ゴーゴーサン乳剤300～500ml/10aを水70～1000(または、トレファノサイド乳剤200～300ml/10aを水1000)に希釈し、散布します。

除草効果を高めるため、土壌が乾燥している場合は、降雨後に散布して下さい。

3 ソラマメ

(1) 摘芯・誘引

親茎が7節程度に伸びた頃、生長点の柔らかい部分を摘心し、側枝の発生を促します。株元からの強い側枝が6本程度確保でき次第、支柱を設置し誘引作業を行います。誘引して株元に光を入れることで同化能力が高まり、莢の肥大が促進されます。

(2) モザイク病

モザイク病ウイルスは、アブラムシによって媒介されます。アブラムシの発生を確認した場合は、アドマイヤーフロアブル4,000倍やモスピラン顆粒水溶剤4,000倍等で防除して下さい。

<山口>

【果樹】

1 温州みかん

収穫は、果実品質のバラツキを避けるために着色が早い樹冠外周、上部から分割採取し、果実を丁寧に扱って、腐敗果の発生・混入を防いで下さい。

採取後は、着色促進、浮き皮・腐敗の発生防止のため、減量歩合2～3%を目安に予措します。

2 中晩柑類

(1) いよかん

樹冠外周、上部の着色の早い果実から、分割採取を開始します。着色が遅れる内部や裾成り果は分けて収穫、貯蔵することで、出荷時の果実品質のバラツキを抑制しましょう。収穫した果実は減量歩合3～5%を目安に予措した後、本貯蔵を行います。貯蔵の目安は、1～2月出荷では温度8～9℃、湿度85%。3月出荷では温度6～8℃、湿度80～85%です。換気にも注意して下さい。

(2) 愛媛果試第28号(紅まどんな)、甘平

愛媛果試第28号(紅まどんな)は、果皮障害の発生に注意し、JAの出荷規格に従って収穫、出荷を行って下さい。甘平は、先月に引き続き果実への袋掛けやサンテ被覆(8分着色以降)を行います。

3 その他

収穫終了後は、耐寒性の向上と翌春の花芽分化を促すために、液肥の葉面散布を積極的に行いましょう。また樹勢がよい園では、12月中旬～1月中旬頃(厳寒期を避ける)、マシン油乳剤(95%)45倍を散布し、越冬害虫の防除に努めて下さい。

<守屋>

【花き・花木】

1 ラナンキュラス(球根養成栽培)

(1) 苗床での追肥

本葉出葉後、葉色が薄くなり始める12月上旬頃に、くみあい液肥2号を400倍で2～3回追肥して下さい。

(2) 本圃準備・定植

定植期は12月下旬です。圃場のpHが適正值(6.5)より低い場合、苦土石灰を100～120kg/10a施用し、pHを矯正します。

また、連作圃場や土壌消毒した圃場では土壌がしまり固結気味となります。排水不良は後半の立枯れ等の多発要因となるので、完熟堆肥等を投入し土づくりに努めて下さい。

元肥は、ようりんを60kg/10a施用し、120cm幅で畝立てして定植します。定植30日後の1月下旬頃に、窒素成分を追肥で施用します。

2 アネモネ

(1) 害虫防除にアディオソ乳剤2,000倍を散布します。

(2) キノコバエの幼虫(4mm程度)は有機質に富んだ土壌中に生息し、発芽後から双葉期の葉や根を食害します。

3 シキミ

輪紋葉枯病は、葉に赤褐色の同心円状の輪紋を生じ、症状が進行すると落葉します。病葉は早めに摘み取り焼却します。ベンレート水和剤2,000倍またはZボルドー500倍を散布します。樹幹が込み合い、通気性が悪いと同病が発生しやすくなります。

<安藤>

【畜産】

(農場の消毒について)

気温の低下とともに、鶏では鳥インフルエンザ、豚では豚流行性下痢(PED)、牛では牛コロナウイルス病の流行する時期となりました。農場・畜舎内へのウイルス侵入を防止するため、衛生管理の基本である人、車両、畜舎の消毒を徹底しましょう。また、消毒薬によっては低温環境下では消毒効果が低下する場合がありますので、濃いめに希釈したり、踏み込み消毒槽の設置場所を工夫したりして下さい。

○主な消毒薬の適用希釈倍率

種類	分類	主な商品名	適用希釈倍率
逆性石けん	陽イオン系	アストップ	500～2,000倍
		パコマ	500～2,000倍
複合製剤	アルカリ添加系	クリアキルー100	500～2,000倍
		ゼクトン	100～300倍
その他	オルソ系	トライキル	100～200倍
		塩素系	クレンテ

○消毒に当たっての注意点

畜舎など施設の消毒前に、泥や糞尿などを十分洗い落としましょう。泥や糞尿は消毒薬の効果を弱めてしまいます。踏み込み消毒槽の消毒薬は、定期的に交換するとともに、汚れたらすぐに交換しましょう。

毎月20日は「一斉消毒の日」、日ごろの飼養衛生管理を再確認し、農場防疫強化に努めてください。

<住吉>